

イエスが与える生ける水

ヨハネ福音書4:7-14

【新改訳2017】

- 4:7 一人のサマリアの女が、水を汲みに来た。イエスは彼女に、「わたしに水を飲ませてください」と言われた。
- 4:8 弟子たちは食物を買いに、町へ出かけていた。
- 4:9 そのサマリアの女は言った。「あなたはユダヤ人なのに、どうしてサマリアの女の私に、飲み水をお求めになるのですか。」ユダヤ人はサマリア人と付き合いをしなかったのである。
- 4:10 イエスは答えられた。「もしあなたが神の賜物を知り、また、水を飲ませてくださいとあなたに言っているのがだれなのかを知っていたら、あなたのほうからその人に求めていたでしょう。そして、その人はあなたに生ける水を与えたことでしょう。」
- 4:11 その女は言った。「主よ。あなたは汲む物を持っておられませんし、この井戸は深いのです。その生ける水を、どこから手に入れられるのでしょうか。」
- 4:12 あなたは、私たちの父ヤコブより偉いのでしょうか。ヤコブは私たちにこの井戸を下さって、彼自身も、その子たちも家畜も、この井戸から飲みました。」
- 4:13 イエスは答えられた。「この水を飲む人はみな、また渴きます。」
- 4:14 しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことはありません。わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。」

【祈りながら考えよう】

- (1) イエスが女に「わたしに水を飲ませてください」と言われたのはなぜですか。
- (2) なぜ女はイエスの語りかけに驚かれたのですか。
- (3) この世の「井戸の水」とイエスが与える「生ける水」との違いを説明してください。

【解 説】

(1) 主はどのように導かれたか

《一人のサマリアの女が、水を汲みに来た。

イエスは彼女に、「わたしに水を飲ませてください」と言われた》
主イエスが井戸のそばに腰を下ろしておられると、ひとりの女が水をくむために村からやって来た。その時間が正午であると言うのは、女性が水をくむために来る時間としてはきわめて異例である。1日のうちで、最も暑い時間帯だったからである。

しかし、この女は不道徳な生活を送っていたので、羞恥心からこの時間を選んだと思われる。この時間であれば、自分の姿が他の女に見られる心配がなかった。

もちろん、主イエスは、この時間に彼女が井戸の所に来ることをとうにご存知であった。彼女の魂が助けを必要としていることを知っておられた主は、彼女に会い、その罪深い生活から救い出そう、と決意された。

主がどのように導かれたかを学びたい。この主イエスの求めには、注目すべき点が4つある。

- ①主は、決してこの無知で不道徳な女性に救いの話を聞かせてやろうとか、この哀れな女性を助けてやろうといった態度をもって彼女に臨んではいけない。イエスは婦人が話しかけて来るのを待つのではなく、自分のほうから会話の口火を切られた。
- ②ひとりの旅人として、しかも井戸の傍らに腰を下ろして、彼女の来るのを待っておられた。それは驚くほど謙遜な行動であった。万物の創造主であられる方が、罪を持つ被造物のひとりの手から少しばかりの水を受けることを恥とはされなかった。
- ③会話のきっかけは、聖書の話でもなければ、彼女の不道徳な生活についての糾弾でもなかった。ごく自然に「わたしに水を飲ませてください」というところから始めておられる。



どんな人でも、その人と親しくなるには、その人に親切にして上げるか、その人から親切にもらうというところから始まるもの。これが単なるテクニックではその後が続かないが、心からのものであれば、友を作ることは決してむずかしくはない。友情はこうしたところから生まれていくもの。

- ④イエスは相手に好意を求め、ご自分を借りを持つ立場に置かれた。この婦人の気持ちを引きつけ、彼女が自分の話を喜んで聞くようにしむけるのに、これ以上に優れた方法はない。
それによってイエスと女との間にあったギャップに橋がかけられた。そこから彼女の回心への道が開かれていった。何にもまして大切なのは親切な態度である。相手を見下げるような振る舞いは厳に慎まなければならない。

(2) 自分の欲求を満たすために奇蹟を行われたい

《弟子たちは食物を買いに、町へ出かけていた》(8節)

この時には、弟子たちは食物を買いに出かけていて、主イエスとこの婦人だけであったから、心の深いことを話すには、ちょうどよかった。

8節は、主イエスは自分の欲求を満たすためには奇蹟を行われなかったという原則を示す一例である。その気にさえなれば、わずかのパンと魚とで五千人以上もの人を養い得た方なのに、私たちと同じように、食物を買い求めることに甘んじられた。これはイエスの高ぶりのなさを示す。

万物の創造者として、富んでおられた方が、私たちのために貧しくなられた。これはまた、私たちキリスト者に対して、霊的であることを誤解して金銭管理を軽んじることのないように、自分の必要を満たすのにそれを適切に用いるようにと教えている。

(3) ユダヤ人とサマリア人との不和の原因

《そのサマリアの女は言った。「あなたはユダヤ人なのに、どうしてサマリアの女の私に、飲み水をお求めになるのですか。」ユダヤ人はサマリア人と付き合いをしなかったのである》(9節)

イエスがユダヤ人であることに気づいた女は、サマリア人の自分に向かってイエスが語りかけたことに驚いた。この婦人が驚くのも無理はない。当時、ユダヤ人はサマリア人を異邦人同様に軽蔑して、口もきかなかったからである。主イエスの服装や言葉のなまりから、ユダヤ人であることはすぐに分かったであろう。

ユダヤ人とサマリア人との不和は、その昔イスラエル王国が南北に分裂した後、北王国は偶像礼拝に走り、ついに、紀元前722年に東方のアッシリア帝国によって滅ぼされてしまった。重立った男たちはみなアッシリアへ連れ去られ、その後に残った貧民たちの所へ東方から多くの異民族の男性を送り込んだため、サマリアにいたユダヤ人の女性と東方から来た外国人の男性とが徐々に雑婚し、ついに混血民族ができてしまった(Ⅱ列王17:1他)。この人々をサマリア人と呼び、ユダヤ人は彼らを異邦人同様に軽蔑していた。

こうした背景から、ユダヤ人がサマリア人の女性に口をきき、しかも「水を飲ませてください」と頼んだことに、彼女が驚きの目を見張らざるを得なかった。当時、女性の地位は低く、男性が女性に話しかけるということは一般はほとんどなかった。しかし、主イエスは、この婦人を一人前の人間として取り扱われた。主イエスは、だれもが平気で差別していた時に、ただひとり、すべての人を同じように扱われた。

この女性は主イエスに、「あなたはユダヤ人なのに、どうしてサマリアの女の私に、飲み水をお求めになるのですか」と尋ねた。

(4) 「井戸の水」とイエスが与える「生ける水」との違い(10-14節)

そこへ来るまで主イエスに対して全く関心のなかったこの女が、興味と関心を持って来たことをきっかけとして、主イエスは大切な真理「神の賜物」と「生ける水」を話された。

「もしあなたが神の賜物を知り、また、水を飲ませてくださいとあなたに言っているのがだれなのかを知っていたら、あなたのほうからその人に求めていたでしょう。そして、その人はあなたに生ける水を与えたことでしょう」
主はヤコブの井戸の水と、ご自分が与えようとしておられる生ける水との違いの説明を始められた。

- ①「この水を飲む人はみな、また渴きます」
サマリアの女はこの点は理解できた。彼女は来る日も来る日もこの井戸から水をくみに出かけて来た。しかし、必要が充足することは決してなかった。実は、この世にあるすべての井戸も同じである。人は地上のものに楽しみと満足を求めるが、残念ながらそのようなものによって、人の心の渴きがいやされることはない。
- ②「しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことはありません。わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます」

人間の体に対して「水」は、汚れを落とし、清潔にし、熱を下げ、生気を取り戻させ、喉の渴きをいやすが、「神の賜物」である「生ける水」は、人の魂と霊に対して同じような働きをする。

罪を持つ人間に必要な一切のものが「生ける水」という意味深長な表現の中に含まれている。罪の赦し、平安、あわれみ、恵み、義認、心の新生、聖化、永遠のいのち、という水を飲む者は、もはや2度と渴くことがない。

これが与えられると、本当の満足を得ることができる。心を満たすだけにとどまらず、あふれ出て、他の人々をも潤し、渴きをとどめることができるようになる。

「泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます」という表現は、キリストが与える水が、この地上に限られたものではなく、永遠まで続くことを意味している。